

# 平成30年度（2018年度） 第2回越谷市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会会議録

平成31年（2019年）2月18日（月）14：00～

越谷市役所本庁舎5階第1委員会室

## ○委員定数（17名）

## ○出席委員（12名）

遠藤 進	委員	越谷市私立保育園・認定こども園協会（会長）
竹村 厚子	委員	越谷市私立幼稚園協会（書記）
佐藤 勝	委員	越谷市民生委員・児童委員協議会（理事）
佐藤 辰之	委員	越谷市医師会
會田 容子	委員	越谷市子ども会育成連絡協議会（会長）
渡辺 寛子	委員	越谷市子育てサークルネットワークの会（幹事）
大西 孝一	委員	越谷市商工会議所（常議員）
中台 正弘	委員	越谷市小学校長会（越谷市立蒲生第二小学校 校長）
長友 祐三	委員	埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉子ども学科（教授）
宮地 さつき	委員	文教大学人間科学部人間科学科（専任講師）
日比谷 富貴子	委員	越谷地区労働組合協議会（幹事）
鈴木 礼子	委員	公募委員

※早退1名を含む。

## ○欠席委員（5名）

奥田 正樹	委員	越谷市PTA連合会（副会長）
小林 直紀	委員	埼玉県立越谷西特別支援学校（校長）
遠藤 和幸	委員	埼玉県越谷児童相談所（所長）
野口 和幸	委員	公募委員
竹内 由紀	委員	公募委員

## ○事務局出席者

渡邊 浩秀	子ども家庭部長	藤城 浩幸	子ども家庭部副部長(兼)青少年課長
関根 正和	子育て支援課長	野口 広輝	子ども育成課長
櫻田 尚之	市民健康課長	渋谷 博之	児童発達支援センター所長
稲橋 利幸	児童館コスモス館長	中村 清彦	児童館ヒマワリ館長
阿部 伸也	子ども育成課調整幹	小抜 麻衣子	子育て支援課副課長
中村 則行	子育て支援課副課長	小澤 幸太	子ども育成課副課長
椎谷 将広	青少年課副課長	渋谷 朋子	子ども育成課主幹
山崎 愛	子ども育成課主幹	佐藤 大智	青少年課主幹
鈴木 裕子	子育て支援課主査	箕輪田 祐美子	子ども育成課主任
杉内 麻里子	子育て支援課主事	八田 彩起子	子ども育成課主事
岩崎 友希	障害福祉課主事		

## 1 開会

### ※配布資料確認

- ・次第
- ・越谷市障がい福祉関連計画策定に係る児童福祉専門分科会と障害者福祉専門分科会の合同開催について
- ・第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画の策定について
- ・幼保連携型認定こども園(平成31年(2019年)4月開設分)の認可・確認について
- ・小規模保育事業(平成31年(2019年)4月開設分)の公募結果及び認可・確認について
- ・家庭的保育事業等の事業者変更に伴う認可・確認について
- ・保育所等の利用定員の変更について
- ・こしがや「プラス保育」幼稚園事業の実施予定について
- ・障がい児通所支援の基準についての意見募集について
- ・参考資料
- ・第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画スケジュール案
- ・平成31年(2019年)4月開設分 小規模保育事業実施予定者 採点表(当日回収)
- ・委員名簿
- ・出席職員名簿
- ・席次表

※司会(事務局)より傍聴人の報告

## 2 議事

※審議会条例第6条第2項に基づき、長友分科会長が議長となり議事進行する。

## 3 (1)協議事項

①越谷市障がい福祉関連計画策定に係る児童福祉専門分科会と障害者福祉専門分科会の合同開催について

事務局説明(障害福祉課 岩崎主事)

②第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画の策定について

事務局説明(子育て支援課 小抜副課長)

③幼保連携型認定こども園(平成31年(2019年)4月開設分)の認可・確認について

事務局説明(子ども育成課 阿部調整幹)

④小規模保育事業(平成31年(2019年)4月開設分)の公募結果及び認可・確認について

事務局説明(子ども育成課 阿部調整幹)

⑤家庭的保育事業等の事業者変更に伴う認可・確認について

事務局説明(子ども育成課 阿部調整幹)

## (2) 報告事項

①保育所等の利用定員の変更について

事務局説明(子ども育成課 阿部調整幹)

②こしがや「プラス保育」幼稚園事業の実施予定について

事務局説明(子ども育成課 小澤副課長)

③障がい児通所支援の基準についての意見募集について

事務局説明(子育て支援課 小抜副課長)

## 質疑等(要旨)

### 3-(1) ①越谷市障がい福祉関連計画策定に係る児童福祉専門分科会と障害者福祉専門分科会の合同開催について

意見なし。全体会に諮ることとする。

### 3-(1) ②第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画の策定について

議長 調査については発送が終わり、3,000名ほどから回答があるということである。このあとニーズ調査等を進めていくとのことである。

委員 各団体へのヒアリング調査の件だが、これはまだこれからということによろしいか。

事務局 団体調査については今提示した内容で進めていきたい。

委員 団体調査票の問1と問3の違いはどのようなことか。

事務局 問1については団体の現状をお答えいただきたいと考えている。問3については、内容的には同じような形になるが、経済的に困窮している子どもや保護者に対して、どのような支援を行ったか、今実施している事業以外で、団体としてどこかに繋いだか、何か支援をしたか、ということピックアップして聞くために設けている。

委員 前回、対象団体については話し合ったが、何団体くらいに調査するのか。

- 事務局 調査対象の団体だが、例えば貧困対策に関する支援の団体として、子ども食堂について5団体、子育て支援の団体としてサロン3団体等と考えている。
- 委員 全体でどれくらいにアンケートを配るのか。
- 議長 今お答えいただいたのは支援団体、子育て支援団体が主だったが、他に福祉関係課、教育等関係課ともにヒアリングするということもあるので、その辺がどのくらいの数になるのか。
- 事務局 支援団体ということで、だいたい10団体くらいを予定している。福祉関連団体だと、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、児童相談所で3団体、教育等の関係機関については、教育センター、PTA、保育所、保育園、幼稚園、こちらは協会を通じたの調査で5団体。そこに先ほど説明した団体となるので、全部で10～15団体となる。
- 委員 対象者数として少ないのではないか。福祉関係と教育関係をもう少し増やしてもよいと思う。
- 議長 一回のヒアリングで何時間くらいを想定しているのか。
- 事務局 先に調査票を配布し、内容が返ってきたものについてヒアリングを行う予定なので、1時間から2時間程度になるかと思われる。
- 議長 アンケートの後に直接の聞き取り調査を最大2時間くらい実施するということでは、ヒアリングではだいたいそのくらいの数が限界かと思う。
- 委員 アンケートの内容について、記述式は回答しにくいのではないかと思う。各団体が得意とする分野が分かるのであれば、選択式の項目があってもよいのではないか。記述式は集計も大変であり、集計したものを数値化できた方が読み解くときに良いのではないかと思う。  
また今回は、調査対象が団体となっているが、個人として活動している方はまた意見や想いが違うのではないか。ぜひ次回は、個人で活動している方の細かいところまで関わっていらっしゃるところをヒアリングし、行政として何ができるのかのヒントをいただけるとよいと感じた。
- 議長 先ほど委員から、大きな柱立てのみであると、回答する方が具体的にどのような内容を書くのか想定ができないという話があったが、いかがか。
- 事務局 調査票については内容を含め、回答者が書きやすいものにしていくため、再度検討したい。
- 委員 団体が対応している年代や対象者、お母さんなのかお父さんなのか子どもなのか、保護の対象が分かる項目があればよいのではないか。誰に対して行っている支援なのかという点で、複数の団体がかぶっていたり、手薄な部分があるのではと感じた。

議 長 このアンケートはヒアリング対象者のみに送るのか、それともヒアリング対象を補完するため多めに送ったりするのか。

事務局 ヒアリング対象者だけに送るのではなく、今検討している団体すべてに送り、その中から対象者を見つけるように考えている。

議 長 そうすると、絞り込むにあたって、もう少し細かく設計をするとよいかと思う。結果については4月以降回収した結果がまとまって、こちらの方にもお返しいただくということで、そのスケジュールの中で細かく進めていく。

### 3-(1) ③幼保連携型認定こども園(平成31年(2019年)4月開設分)の認可・確認について

議 長 0～2歳児の定員で0歳児が0人となっているが、越谷市における0歳児のニーズというのはどのくらいか。

事務局 保育ニーズについては、傾向として0～2歳が圧倒的に多い状況である。特にその中でも1歳のニーズが大きくなっている。

### 3-(1) ④小規模保育事業(平成31年(2019年)4月開設分)の公募結果及び認可・確認について

委 員 採点票にある審査時の指摘の点はクリアになっているから認可するというところでよろしいか。例えば保育室等にデッドスペースを設けている・死角が多いという指摘は、保育所としては少し心配だが、こういった事もクリアになっているという認識でよろしいか。

事務局 選定以降に協議し、クリアな状態になってから認可をしようと考えている。

委 員 確認のタイミングはあるのか。

事務局 選定以降も、凶面の確認等でやりとりをしており、事業者のほうも調整の中で計画の見直しを行った。また、現場にも認可・運営の前、おそらく3月に改めて伺い、確認をする。その他の項目についても基本的には懸念されることすべてが改善できるわけではなく、お願い事項のようなものもあるが、できる限り市としてのアドバイス・意見を事業者側にも反映してもらい、認可に向けて進めている。

委 員 小規模保育の場合、連携園の問題があると思うが、どうなっているのか。

事務局 採点票の中ほどに連携施設と言う評価項目があるが、この中で評価している。それぞれの園が、どこの幼稚園と連携を確約した、というような報告をいただき、それを加味しながら評価している。

議 長 2つ目の園の広さが77平米で17人ということで、結構厳しいのではないかと、クリアされていると思うが、よろしいか。

事務局 保育室の面積で、定員17人にかける3.32の有効面積があり、ロッカーや洗面台といった固定物をのぞいたものを現時点で詳細に図面にて確認しておりクリアになっている。この先施設が完成した後も現地で確認を行い、有効寸法の確認も行う。

議 長 77平米で17人は結構狭い、厳しいと思う。いろいろ荷物等を置くと子どもの動線を確保できない等もあるので、その辺も開業以降、状況の確認をお願いしたい。

委 員 今後事業者に対する期待という部分を読んでいくと、やや不安になる点が多い。特に、保育士は「0歳保育の実績がない」とか「1・2歳保育の実績が少ない」とか「保育経験がなくリーダー経験もない」とか、そういう保育士は心配になる点があると思うので、今後ご指導いただきたい。  
それから、八潮の幼稚園が連携施設となっている園があるが、この八潮の幼稚園は交流ができる範囲なのか。

事務局 採点票においては、レイクタウンのあすなろ幼稚園の距離が1.3kmなので、こちらの幼稚園で交流を図るということを考えている。先ほどの「0歳の指導経験がない」といった懸念についても、法人体制を強化し取り組むよう指導・助言をしている。市としても、可能なことについてはさまざまな研修等でサポートしていきたいと考えている。

委 員 私の認識不足もあるかと思うが、採点票の下の所に（事業類型の小規模保育事業）A型基準のところがあり、「保育に従事する人が全員保育士である」という項目があるが、ここに○がついているのが1事業者である。もちろん保育士もいると思うが、※印にある「必要保育士数確保されていないため加算無し」という内訳について、必要保育士数と言うのはどのくらいなのか。また、必要保育士数が確保されていないというためのジャッジメントなのか、あるいは全員該当しないためのジャッジメントだったのかというのを教えてほしい。

事務局 この表現については、公募審査時に、確保できている保育士の名簿を審査するのだが、公募審査時においては、それが確認できなかったということである。当然A型であれば全員保育士、B型であれば半分保育士であることを認可するにあたって確保することが大条件である。

### 3-(1) ⑤家庭的保育事業等の事業者変更に伴う認可・確認について

質疑等なし

### 3-(2) ①保育所等の利用定員の変更について

議 長 定員の減少の理由について、保育士の確保が困難だとあるが、相変わらず保育士の人材不足が続いているのか。

事務局 続いている。越谷市に限らず全国的な問題となっている。市としても、保育士確保のための、若い職員の研修で、離職を防止する取り組み、保育園・認定こども園協議会の就労セミナーに関するサポート、地域型保育事業協会の就労に関するサポート等、さまざまな取り組みを行っている。

### 3-(2) ②こしがや「プラス保育」幼稚園事業の実施予定について

議長 これは市の補助事業という形になるのか。

事務局 長時間預かりを実施していただける幼稚園に補助金を出すことで、利用者が一定額の負担で済むような制度設計を行っており、長時間預けても安心だということ売りにした事業である。

### 3-(2) ③障がい児通所支援の基準についての意見募集について

議長 条例として議会の方にあげられるのはいつごろか。

事務局 今の所、経過措置については31年度中と設けられているが、なるべく早く行いたい。時期については未定だが、他市も、12月頃での制定を予定していると聞く。越谷市もその頃を目処に準備を進めたい。

## 4 その他

※来年度の分科会日程について事務局より連絡

議事終了 15:15